



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

年頭のご挨拶 ～夢のある協会へ～

会長 下山 貞明

2008年の新春を迎え、皆様とともにお慶び申し上げます。

会員の皆様には日頃当協会の事業推進にあたり、多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2007年度事業も着実に実施されており、特に新しいイベントとして昨年10月には「Modern Jazz vs Gipsy Music」と題したコンサートが、ピアニストの岩崎良子さん（会員）を中心とするユニットで企画され、大成功のうちに終わりました。

協会発足以来20年を迎えようとしており、その間会員の皆様のご協力により、年々力強さを増し、充実した事業ができましたことは、誠に喜ばしい限りです。

人は、高齢化が進むにつれ仲間が減り、気力を失いさらに夢がなくなると言われています。当協会においても、会員の平均年齢が高くなってきております。しかし日頃積極的に活躍されている各委員等の皆様は、スペインという共通の場のもとに会員相互の絆を深め、年齢とは関係なく若さを保ち、心豊かに楽しい人生を過ごされておられます。

どうかスペイン大好きな仲間という共通の思いを寄せて、新たな「夢のある協会づくり」のために、総ての会員の皆様が可能な限り積極的に参加していただきたく、重ねてお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。



新しいイベント

「Modern Jazz vs Gipsy Music」成功裡に終わる

昨年の10月25日（木）、当協会初めての試みとして、JR東神奈川駅前にある「かなっくホール」においてジャズコンサートを開催しました。

これは会員の岩崎良子さんがジャズピアニストであり、彼女が「ジプシージャズ」というジャンルでピアノ演奏に挑戦していること、また横浜で初めてジャズの演奏がなされたのが、日本でジャズが演奏された最初の頃であり、そのため今でもジャズファンが多いことなどを考慮し、協会の新しい活動の一つとして行われたものでした。同時にこのイベントは、当協会が一般の方々に横浜スペイン協会の存在をアピールするといった目的もありました。

こういった新しい試みではありましたが、会員各位および出演者のご協力で、集客率80パーセントという大成功のうちに終え、当初の目的をある程度達成することができました。

とはいえ、このイベントへの会員の積極的な協力と参加はごく限られたものでした。そこで今後このことに対する反省をしながら、多くの会員の協力と参加を得てより健全な運営のための新しい企画のイベントを開催していきたいと思っています。

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

●2008年2月のスペイン・サロン

フリートーカーキングくあれこれ情報・スペイン談義>

東京にオープンした「セルバンテス文化センター」の情報などスペイン関連の話題を持ち寄り、スペイン好きな人々の交流を深めましょう。

日 時：2008年2月16日（土）13：30～15：30

場 所：県民サポートセンター7階/711号室

会 費：会員・一般 500円

●2008年3月のスペイン・サロン

親睦パーティを企画しました。飲んで歌って楽しく盛り上がりましょう。今回の会場は音を出しても大丈夫です。ギターなど楽器の出来る方は、ぜひ楽器持参で参加してください。またスペインの歌の楽譜、CD、テープなどもあったらお持ちください。スペイン人のお友達もどうぞお誘いください。

日 時：2008年3月8日（土）13：00～16：00 *今回は第2土曜日ですのでご注意ください。

場 所：「波止場会館」1階 多目的ホール

中区海岸通 1丁目1番地 TEL 045-201-3842

(大さん橋のたもと「開港広場前」信号そばのレストラン「スカンディア」の並びの裏)

会 費 (予定)：会員 1,000円 一般 1,200円

歴史と文化を知るスペイン・サロン

●10月のスペイン・サロン

「スペインのロマネスク建築について」

講 師：小倉康之氏（横浜美術短期大学・早稲田大学エクステンションセンター講師）

日 時：2007年10月20日（土）13：30～15：30

会 場：県民サポートセンター4階/405号室

講師はスペインだけでなく関連するイタリア、フランスなどの建築物をその特徴を説明しながら、沢山見せてくださいました。

主旨は、カタルーニャの初期ロマネスク建築はイタリア半島北部に発達したロンバルディア様式であるというのが定説であるが、5世紀の西ローマの建築様式からロンバルディアとは別に多様な要素を交えて独自に発展したカタルーニャ様式であると言いたいということでした。

『現在パラドール・カルドナになっている建物にあるサン・ビセンテ城塞聖堂は典型的なカタルーニャ様式の建物で天井



▲いつもながらの熱意溢れるお話でした

が高く石造のアーチ型になっている。火を放たれても燃えないように石造なのである。これを支えるために壁は厚く窓は開けられない。開けても小さい窓でなければ強度が保てない。明るい南欧スペインだからこそこの建て方である。カルドナのパラドールに泊まったことがあるが、青空に映える高い丘の上に聳える建築で、壁の厚みが1メートルほどもあったことを思い出した。天井が重いので崩落事故が起こりやすいが、全体が不燃性であり山頂においても材料の調達が容易である。また高い天井は天を象徴した霊廟建築であったそうである。

リポイの有名なサンタ・マリア門のある修道院もカタルーニャ様式である。高い塔を持つが鐘つきのためばかりではなく、イスラムの侵入を恐れ、外敵を見張るための塔でもあったし、敵に滅ぼされた時の最後の砦としても役立つつもりで食料の備蓄もされていたという。そういえば、川に囲まれた地形の中で、塔屋

にはカタルーニャの旗が翻っていた。

さまざまな建物の外壁のブラインド・アーチや柱の並び方にもそれぞれの特徴がありルーツをたどっていくのも興味深い。

やがてレコンキスタにより平穏な時代になって、天井が木造りになり大きな美しいステンドグラスの窓のあるゴシック建築へと移行していく』

多くの画像と説明についていくのがやっとなで、あつという間に時間が過ぎてしまいました。(宮川美句子)



▲講演後参加者から熱心な質問も……

●11月のスペイン・サロン

「パエージャを作って食べる会」

講師：鎌田暁子会員、山田るりこ会員

日時：2007年11月17日（土）13：30～16：30

会場：神奈川地区センター 調理室

スペイン・サロンでは初めての調理室を借りて自分達でパエージャを作り、それを試食するという試みがついに実現しました。まず、当日朝10時30分にそごうデパート地下でスペイン・サロン担当者3人（寺原、千葉、石井）と講師の一人である山田るりこさんが落ち合い、必要な食材を購入しました。開店間もない時間帯でもあり、ゆっくりと一つ一つの食材を吟味して仕入れることができました。



▲参加者全員での記念写真

地区センターでは、13時まで別のグループが使用していましたが、少し早めに終了してくれたので13時前には調理室に入れました。13時過ぎには三々五々参加者が到着し、13時30分にはほぼ定員に近い出席者が全員到着しました。皆さん、到着するとすぐにエプロンを着け、自発的に二人の講師が必要とする食材をわけたり、必要な大きさに切ったり率先して下ごしらえを手伝ってくれました。講師は二人とも長くスペインに滞在していたこともありパエージャ作りはお手の物と言った感じで、お二人ともじつに余裕のあるベテランコシネーラでした。そして、15時30分頃お二人のすばらしいパエージャが出来上がりました。

鎌田さんのパエージャはPaella Valenciana暁子流であり、山田さんの一品は強いて呼ぶならPaella a la Srta. Ruriko Yamadaとでも言えるものでした。メインのパエージャが出来上がる間に手の空いている人達が鎌田さんの作ったドレッシングでレタス、タマネギ等を和えて簡単なサラダを作りました。また、鎌田さんが自宅でデザートのアロゾコンレケを作ってきてくれて、食後大変おいしくいただきました。さて、お二人の作品(?)の出来ばえですが参加者は四つある調理台を囲んで座り、お互いのパエージャを交互に試食しましたが、さすがお二方共手馴れていて両者甲乙つけがたく本当に満足させていただきました。

山田さんは魚介のスープストックCaldo de Pescadoという珍しい食材を自宅からもって来ており、かなり良い出汁ができていましたし、鎌田さんはベーコンブロックを適当な大きさに切ったものを使ったり、それぞれの個性がよくでていて、出来上がったものは本当にきれいで豪華な感じがして食べるのが惜しいくらいでした。

参加者のなかに一人横浜山手のインターナショナルスクールでスペイン語を教えていると言うビルバオ出身の女性が、ホームページを見ての参加がありちょっと国際色豊かな試食会となりました。参加者全員が美味しさを満喫した午後のひと時でした。(石井加奈弘)



▲見事なできばえのパエージャ

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪ スペイン音楽サロン ♪♪

2007年10月25日に協会主催のスペイン音楽会を開催いたしました。別掲のとおり多くの会員の協力により楽しいコンサートとなりました。この音楽会でピアノを担当された岩崎会員より参加者の声ならぬ当事者の声？をお寄せいただきました。

—— 会員投稿 ——

かなっくホールコンサートを終えて

岩崎 良子

「Modern Jazz vs Gipsy Music」という、かなり奇抜なタイトルで昨年の10月25日（木）19時から、東神奈川にある“かなっくホール”で、横浜スペイン協会主催のコンサートをしました。出演者は、ピアノ・岩崎良子、サクソ・小又弘昌、ギター・高木潤一、ドラム・磯見博、ベース・山村隆一、ボーカル・横前恭子の総勢6人でした。

タイトルの通り、1部はモダンジャズ、2部はジプシーミュージックという構成にしました。今回のコンサートは、協会の運営資金のために少しでも協力するという目的があり、非常に責任を感じました。会員になってまだ日も浅い私には、かなり荷が重かったというのも偽りのない事実です。しかし協会の方々の大きなご協力を得られ、また当日は良い天気にも恵まれ、お客様も250名近く入り盛況のうちに終えることができました。



▲アドリブ演奏には定評のある岩崎さんのピアノ演奏

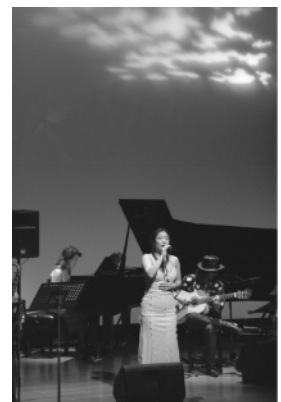


▲聴衆を魅了した岩崎さんを中心としたプレイヤーの面々

のDUOで演奏しました。その後、高木潤一さんがフラメンコギターのソロを存分に聞かせてくれ、その後にロルカのカフェから「チニータスのカフェ」を全員で演奏。このあたりから場内も熱いムードになり、「黒い瞳」では演奏者のテンションも高まり、「スペイン」ではすっかりお客さんと演奏者が一体となり盛り上がりました。演奏者には、お客様の気持ちが伝わるのです。このことは、いつも感じることなのですが、この日のコンサートは1部と2部の温度が違っていたと思うほどです。

「ジプシー」に関する考察は、今後も続けていきたいです。こだわっていく事で何かを学んできたので、これから何年かかるかわかりませんが、「ジプシーミュージック」の演奏も本来ジプシー達がそうであったように、その地で聴衆を喜ばせることを意識した自由でエキサイティングなものを目指していきたいと思っています。

幸い「横浜スペイン協会」に入会させて頂いたおかげで、スペイン語を始めたり、多くのスペイン通の方々と交流がもてたりできるようになりましたので、さらにスペイン音楽について勉強をしていくつもりです。



▲この日のためにスペイン語での歌をおぼえたというボーカルの横前さん



絵画教室 アンダルシア地方スケッチ旅行



絵画教室では去る2006年10月16日から30日までの15日間、アンダルシア地方スケッチ旅行を開催しました。前回48号に続き、記録をお届けします。

会員投稿

アンダルシア地方スケッチ旅行 15 日間 (その3)

飯塚 劭

2006年10月22日 (日)

午前8時

朝食。食後荷物を整理し、第二回目のスケッチの旅の準備です。

午前9時

ホテル出発。前はカディス県が中心でしたが、今回はマラガ県とグラナダ県中心です。運転手は前回と同じペペさんです。みなさんとはすでになじみなので、ペペさんも前回と比べだいぶうち解けているのが分かります。

午前10時20分

フリヒリアーナ到着。この町はマラガ県に所属しています。今回の旅の最初の目的地です。ここはツアーリーダーの島津画伯が一度題材にした地でもあり、案内役を引き受けてくれました。

この町は、すでに白い町として観光名所になっており、町への入り口近くの駐車場には観光バスをはじめ多くの自家用車が駐車していました。日本人の観光客の姿も見えました。

町の中は車が走れるようなところではないため、歩行者は安心して歩けますが、道幅は狭く、急な坂道や階段状の道もあるため、高齢者の歩行には注意が必要です。しかしそれらの不安を吹き飛ばすような町の景観には、圧倒されます。

午後12時

フリヒリアーナ出発。途中からバスが快適なバイパスを外れると、狭く急な坂の道に変わります。車窓からの眺めはみごとですが、足下を見るとまさに千尋の谷です。ペペは慎重に運転していきます。

午後3時

パンパネイラ到着。この町はグラナダ県に属しています。ここで、ある家をスケッチしていると、その家から一人の老婆が現れ、「私の家を描いているのなら、できた絵を一枚くれ」というのです。

そこで島津画伯がご自分で描かれた絵を差し上げると、大変喜んで今度はスケッチしないでいる参加者を「景色の良いところを見せてあげる。こちらにおいて」と誘い、不自由な足を引きずりながらビューポイントまで案内してくれるのでした。

EUに加盟し、スペインも変わったと言われますが、地方の田舎に行けば、まだまだ昔のままの素朴なスペインが味わえます。

午後4時30分

パンパネイラ出発。



▲パンパネイラの町からズビオン、カピレイラの町を望む

午後5時

ズビオン到着。パンパネイラとズビオン、そしてカピレイラは山に向かって通った一本の道に沿って並んでいる白い村々です。

ホテルにチェックイン。このホテルはコテージスタイルになっており、各部屋にキッチンが付き、ベッドルームとダイニングキッチンの二部屋付きという構成で、長期滞在できるようになっています。もちろん、夏には庭のプールで水浴もできます。

チェックイン後、すぐにまたこの町のスケッチに出かけました。ここも、かつて島津画伯がモチーフを求めて、取材にきたことがあるとのことでした。もちろんスケッチをしない方たちも同行し、途中から分かれ村の中を散策です。

午後8時30分

運転手のペペさんにも仲間に入っただき、全員での夕食です。



▲フリヒリアーナの町



▲パンパネイラの町でスケッチ

アルコールが入ったせいで、みなさん陽気になったためでしょうか、会話がはずみます。片言のスペイン語でペペさんと話す人たちもいました。そこでペペさんは奥様と息子さんの写真を見せてくれましたが、奥様がとてもすばらしい美人なので、全員大騒ぎでした。

2006年10月23日（月）

午前8時

朝食。チェックアウト。

午前9時

ブビオン出発。

午前9時30分

カピレイラ到着。この季節、山間の村はまだ眠っていました。山から吹き下ろす風は少し肌寒く、スケッチする手がこごえそうです。そこで広場にあるバルに入って、熱い飲み物を注文して体を温めながらのスケッチでした。

午前10時30分

少し寒いので予定より早めにスケッチを切り上げ、カピレイラを出発することにしました。

山道を下り、高速道へ出るともうすぐグラナダです。寒いのも道理で、昨夜シエラ・ネバダに初冠雪があったとかで、山頂に白いものが見えました。

午後12時

グラナダ到着。ホテルにチェックインしましたが、予定より早く到着したため部屋に入ることができません。ホテルの荷物室にスーツケースなどの大きな荷物だけを預かってもらい、各自で近くのカフェテリアやバルなどで昼食をとりました。

午後1時30分

ホテルに再集合です。今回の旅行では参加者全員が訪ねる著名な観光地は、このグラナダだけです。

現地のガイドの方がホテルに見えられ、これからアルハンブラの見学です。

アルハンブラは世界遺産に登録されてから、見学者が多くなったとのことですが、本当に大変な人の多さにびっくりしました。世界各地からの見学者で溢れていました。

午後3時

ホテルに帰り、各自荷物を受け取った後入室です。

午後4時

ホテルロビーに再集合。カテドラルと王室礼拝堂見学に出かけました。

午後7時30分

夕食。

午後9時45分

希望者のみのナイトツアーです。アルバイシン地区を歩き、聖ニコラス教会前広場からライト・アップされたアルハンブラ宮殿を見学の後、サクロモンテの丘でフラメンコを見学。参加者全員が、ライト・アップされたアルハンブラ宮殿の美しさに、息をのみました。

2006年10月24日（火）

午前8時

朝食。チェックアウト。

午前9時

グラナダ出発。途中サンタ・フェを経由しましたが、朝早いので何のお店も開いていません。そこでここでは止まることなく通過しました。

この地は、コロンブスがイサベル女王との間でサンタ・フェ協約というものを結んだ場所として有名な地です。また、ここには、革製品の安い店があるのですが、残念ながらそれらは今回全部パスです。

午前10時

ロハ到着。ここは今回のスケッチの旅で全員が立ち寄る最後の町です。町の上に街道があるため、バスにはその街道で待ってもらい、町まで徒歩で降りていきました。

立派な聖堂があるこの町で、スケッチと散策をしました。

午後12時

ロハ出発。

午後2時

トレモリーノス、ホテル・ラ・ルナ・ブランカ到着。

ペペさんとはお別れです。みなさんで握手と抱擁をして別れを惜しまました。

午後7時30分

この日の夕食もホテルの好意で和食です。当然みなさん大喜びです。

2006年10月25日（木）～28日（土）

完全なフリータイムです。各自ホテル側で用意してくれたオプションツアーに参加したり、あるいはゴ

ルフにでかけたりと、4日間を世界のリゾート地コスタ・デル・ソルで楽しみました。

ただ一日だけ、ほとんどの参加者がそろってマラガの町まででかけました。そこで近年新しくオープンした「ピカソ美術館」を訪れたり、カテドラルを見学したり、またマラガの町にひとときわ高くそびえ立つ城塞にまで登ったりしました。

このマラガにはホテル近くのバス停からバスに乗って行き、帰りはマラガのデパート、エル・コルテ・イングレス近くの駅から出ている郊外電車でトレモリーノスまで帰り、駅から徒歩で、その夜ラ・ルナ・ブランカ側で用意してくれたコスタ・デル・ソルにあるレストランでの夕食会に向かいました。

28日（土）スペイン最後の夕食は、ホテル側で準備してくれた、お別れパエージャ・パーティでした。



▲コスタ・デル・ソルの夕焼け

2006年10月29日（日）

午前8時

朝食。チェックアウト。いよいよスペインともお別れです。

出発までの間、ホテル近くの海岸や、ヨットハーバーを全員で散歩をしました。

午後2時30分

ホテル出発。いよいよホテルのみなさんともお別れです。

マラガ空港からの帰路は、往路と全く逆のコースです。終わってみれば長いように思われた15日間の旅もあっという間に思えました。

ところで参加されたみなさんは、どんな思い出と、作品を描いてくれるでしょうか。（完）

会員投稿

グラナダから

正木 三榮子

この文をみなさんにお読みいただいているころ、私はすでに日本に帰っています。しかし、文化庁「新進芸術家海外留学制度特別派遣研修員」として、留学していた私のグラナダ滞在のひとつのエピソードとして、みなさまにお知らせしたいと思って、ペンをとりました。



▲ロルカの像の前で

帰国3日前、12月12日（2007年）の7時半からフェンテバケーロスにある、ガルシア・ロルカの生家である博物館兼研究所でコンサートをすることになりました。

というのは、グラナダのとあるギャラリーのオープニングに頼まれて、ロルカの歌を6曲ほど歌ったのがきっかけです。

この時、たまたま私の歌を聴いて感動してくださったグラナダ大学の教授（写真家）が、すぐにガルシア・ロルカの生家である博物館の館長に連絡して、コンサートが実現することになったというわけです。

蛇足ながら、その写真家の教授がアルハンブラ宮殿で、私のポートレートを撮ってくださることもなりました。

それはさておき、私のスペインでの留学生活は大忙しです。ガルシア・ロルカの生家である博物館の館長である、アントニオ・カラバハールさん（国の認めた有名な詩人だそうです）にお目にかかり、曲目や演奏するサロン、ピアノなどを見に行きました。その後、私が下宿している大家のギタリストから、私の憧れのチュンペーラ劇場（サクロモンテにあり、舞台の背面がガラス張りでアルハンブラ宮殿の夜景が美しい）で、ギター伴奏でグラナダを歌う仕事まで頼まれました。

ガルシア・ロルカ博物館兼研究所でのコンサートでは、写真プロフィール入りのプログラムを作ってくださいそうで、それが日本人がここでロルカを歌った証明になるでしょう。

このコンサートの結果は、帰国後みなさまにお会いしたい、お話できると思います。

グラナダから愛と感謝を込めて、横浜スペイン協会のみなさまへ。

帰国3日前、12月12日（2007年）の7時半からフェンテバケーロスにある、ガルシア・ロルカの生家である博物館兼研究所でコンサートをすることになりました。

というのは、グラナダのとあるギャラリーのオープニングに頼まれて、ロルカの歌を6曲ほど歌ったのがきっかけです。

この時、たまたま私の歌を聴いて感動してくださったグラナダ大学の教授（写真家）が、すぐにガルシア・ロルカの生家である博物館の館長に連絡して、コンサートが実現することになったというわけです。

蛇足ながら、その写真家の教授がアルハンブラ宮殿で、私のポートレートを撮ってくださることもなりました。

それはさておき、私のスペインでの留学生活は大忙しです。ガルシア・ロルカの生家



▲ロルカの弾いたピアノの前で博物館職員アレハンドロさんの説明を受ける（同行のグラナダ在住で版画家の村上さんと）

一 賛助会員各社の会員サービス内容一

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

藤田日出男 (Hideo Fujita)

神奈川県茅ヶ崎市 2007年8月10日入会

40歳代の頃から、スペインへは1ヵ月単位でスケッチに良く行きました。そんなことで、スペインには大変親近感を持っています。現在とくにこれといった希望はないのですが、スペインとの交流ができたらと思っています。

***** 事務局からのお願いとお知らせ *****

◆役員候補者推薦のお願い

2008年度は役員改選の年にあたります。今後の協会の運営に直接携わってくださる方を、自薦・他薦を問わず受け付けます。簡単に推薦理由と推薦者の名前を明記して役員選考委員長（事務局長）宛にファックス、郵便、e-mailでお送り下さい。

同時に、役員選考に携わる委員も若干名募ります。但し、役員選考委員として申し出た会員は、役員候補者になることは出来ません。尚、役員任期は2年です。締め切り：2008年1月31日

◆スペイン語教室の新講座

2007年10月から下記の4つの新しい講座が始まりました。

「ロサ」(Rosa) 「ビオレタ」(Violeta) 「マグノリア」(Magnolia) 「アサレア」(Azalea)
各クラスの詳細については、同封の「スペイン語教室の新講座」のご案内をご覧ください。

◆AIYES通信50号への投稿のお願い

本年5月1日発行予定のAIYES通信は50号を迎えます。一つの節目として、多くの会員のみなさまからの積極的な投稿をお願いします。テーマは「私とスペイン」。スペインの思い出、日本でのスペインとの触れあい、皆さんに知らせたいスペインの情報など長文でも短文でも結構です。写真も歓迎します。

詳細は下記の投稿寄稿あて先にご相談下さい。FAXの場合は

＜編集後記＞ 2007年最大のイベントであったコンサートは、本文にもありますように成功のうちに無事終了しました。しかし事前から多くの会員の協力があったことはすでにこの結果を約束していた、といっても過言ではないでしょう。「大きな組織にはできない、会員による手作りの良さ」それが横浜スペイン協会の特徴です。巷間「偽り」に明け暮れた2007年も終わり、さて本年は素直な気持ちで過ごせるよう祈念し、AIYES通信の「親しみやすさ」を求めていきたいと思ひます。(鈴木生雄)

編集委員 渡邊昭夫 久保田誠志 澤田眞人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は
3月10日(月)です。
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。